

学習シラバス

教科	科目	履修学年	コース	履修区分	単位数
地理歴史	世界史A	2	全(選択者)	必修	2
使用教科書・副教材等	明解 世界史A (帝国書院)				
学習目標	混迷の度を深める国際社会において、日本の今後を託す青年に正しい世界観を提示し、進むべき道を積極的に模索し考えさせる姿勢を培う。				

授業計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学期 中間 考查 まで	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序章 人類の始まり 1節 東アジアの文明 2節 南アジアの文明 3節 東南アジアの文明 4節 西アジア・北アフリカの文明 5節 ヨーロッパの文明	<ul style="list-style-type: none"> ・風土と人間生活の関わりについて理解し、文明の発生と共に世界の諸地域にそれぞれ独自の生活文化が形成されたことを考察する。 ・古代から中世にいたる各地の文明の特色を学び、それぞれの地域において現代につながる文化的基礎が築かれたことを理解する。
1 学期 末 考查 まで	6節 南北アメリカの文明 7節 ユーラシアの交流圏 2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア 2節 大航海時代と新たな国家の形成 3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの革命	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア諸国の繁栄と西ヨーロッパ諸国の海外進出の関係を理解し、一体化が始まる時代を広い視点から考察する。 ・混乱と抗争が続くヨーロッパ諸国において、現代民主主義につながる重要な思想が形成されていったことを理解する。 ・資本主義経済が確立した欧米諸国が、他地域を市場、原料供給地として利用し、世界の一体化が進行したことを考える。
2 学期 中間 考查 まで	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺 4節 東アジアの大変動 2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現代につながる社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の台頭と進出の中で、アジア諸国が伝統的社会の変革を迫られ、それが現代アジア諸国の原点となっていくことを理解する。 ・19世紀後半の第二次産業革命に伴う独占資本の形成が、帝国主義政策の要因となったことを考察する。
2 学期 末 考查 まで	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3節 “民族自決”を求めて 4節 経済危機から第二次世界大戦へ	<ul style="list-style-type: none"> ・19世紀から続く国際対立の激化が世界大戦の導火線となったことを理解する。 ・戦争が一般市民を間接的、直接的に巻き込むものとなり史上類を見ない惨禍が発生したことを理解する。 ・国際社会が大国の都合に左右される中で、それに翻弄されてきた諸民族が、自立のための活発な運動を始めたことを考える。
学 年 末 考 査 ま で	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代 2節 冷戦終結への道のり 3節 地球社会への歩み 4節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・東西対立の構造と展開を学び、勢力均衡に基づく国際対立が継続することの危険性を認識する。 ・第三世界の自立と結束の中で、アジア・アフリカ諸国が世界平和の実現のために大きな役割を果たしたことを考察する。 ・高度な技術は諸刃の剣であり、使う側の人間や社会、世界のあり方次第で有用なものにも危険なものにもなることを理解し、今後の時代を担うにふさわしい人間としての態度を考える。
評 価 方 法	① 定期考查 ② 課題考查 ③ 授業態度 ④ 課題・提出物 以上を総合的に判断して評価します。	